

3. 今後の取り組みの方向性

アプローチ手法 ①取り組みの方向性

- 本事業では、前述の通り、3つのアプローチ手法を用いて、取り組みの方向性に関する検討を行った。

アプローチ手法仮説（再掲）

アプローチ手法仮説

想定される現状

取組の方向性

アプローチ①
ナッジ等による行動変容を促す仕組みの活用

栄養成分や健康への影響が表示されていない場合や食品表示されている栄養成分だけでは健康への影響が分かりにくい場合があり、消費者の健康行動を促すための気づきが無い。

商品やメニューを選択する際、**目に入ってくる情報から健康に関する情報を得る**ことで、健康への影響を認識（気づき）することが出来るようになる。

アプローチ②
食と健康データ基盤整備・個人データ活用

現在、様々な食事記録アプリがあるが、そのほとんどは自分で写真や入力でデータ入力することが必要となり、摂取した栄養状態をデータ化して把握することが持続できていない。

日々の生活状態を把握するために**食事のデータ化や栄養バランスの可視化を行う**ことで、自身の現状を把握し、継続可能な目標設定を行って健康行動を継続することが出来る。

アプローチ③
医療機関・栄養士等連携

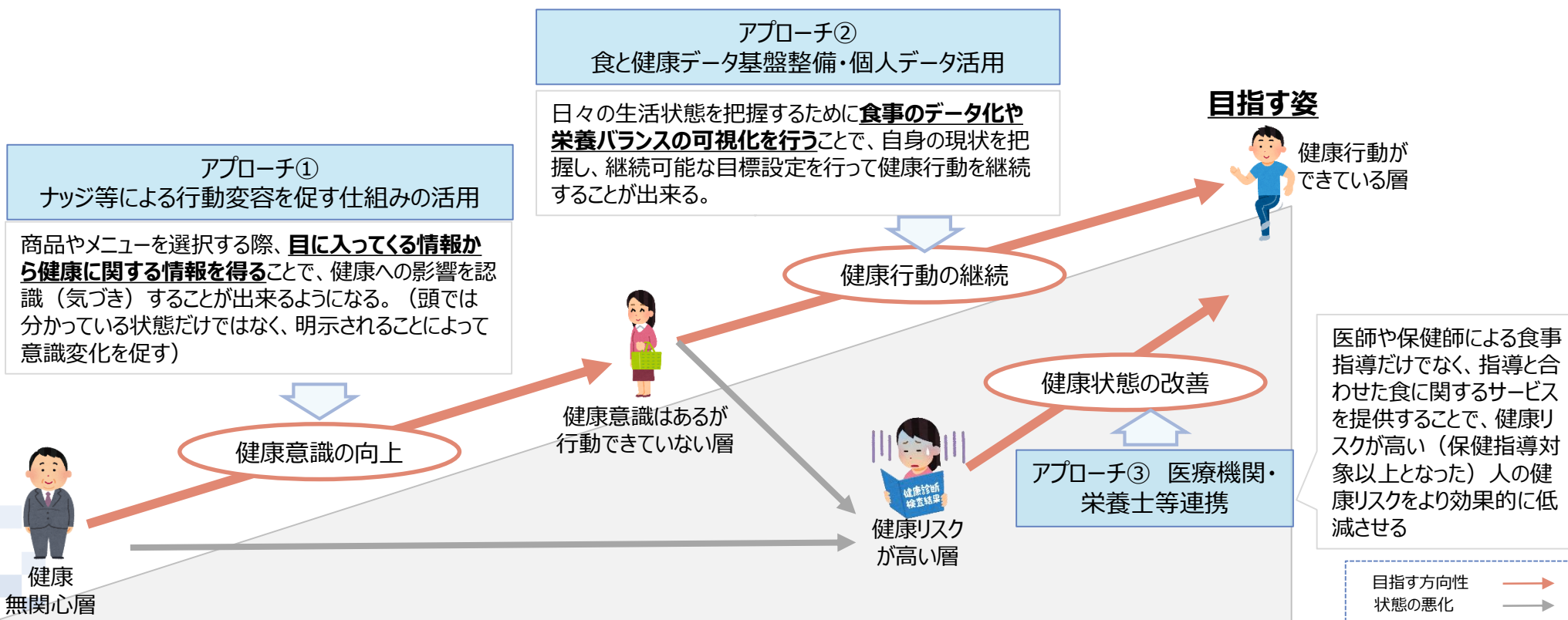
生活習慣病予備軍等の健康状態が悪化する手前の消費者に対する健康予防サービスが行き届かず、健康状態が悪化してはじめて、医療介入や栄養指導が行われている。（早期発見・早期健康状態の改善）

医師や保健師による食事指導だけでなく、**指導と合わせた食に関するサービスを提供**することで、健康リスクが高い（保健指導対象以上となった）人の健康リスクをより効果的に低減させる

アプローチ手法 ②ターゲット層別アプローチ

- アプローチ①では健康無関心層が健康関心層へと行動変容していくために、日常生活の購入現場で自然と入ってくる情報に食と健康に関する情報を付加することで気づきを与える。
- アプローチ②では日々の健康管理に欠かせない情報を自身で把握できるデータ活用基盤を整備することで、健康行動の継続をサポートする。
- アプローチ③では健康リスクが高い層に対して、食と健康の直接的な支援を行い、リスクの低減を目指していく。

ターゲット別アプローチを行うことにより、目指す姿に移行



アプローチ手法 ③有効だと考えられる心理学フレーム

- ナッジを含む行動デザインとは、人々がより良い選択・行動を起こしやすくするため、行動科学の知見に基づいてサービスや施策を設計することである。
- 人間の意思決定は、合理的選択理論とは異なり、直感的・反射的に行われていることも多いことが様々な研究で明らかになっており、そのような認知・意思決定のクセのことを「認知バイアス」という。
- 合理的な判断ができるようにするためには、このような認知バイアスへの対応が必要となる。

行動経済学における理論フレームの応用

行動デザインとは

人々の選択肢を奪うことなく、環境を整えることで、本人や社会にとって望ましい行動をするようにそっと後押しする手法のこと。

ナッジとは

行動デザイン的一种で、「ヒジで軽く相手をつつくように」、適切な選択を促したり、危険を回避させる概念。

出典：『「実践行動経済学」リチャード・セイラー』を参考に作成

主な理論フレーム

現在バイアス

目先の利益が目ぐらみ、将来の大きな利益が目が行かない

損失回避

同じ金額の利得と損失は、損失をより大きいものとして感じる

アンカリング効果

最初に印象に残った数字や言葉が判断に影響を及ぼす

画像優位性効果

学習をする際、文字のみの情報よりも、画像を合わせたほうが効率が高まる＝画像による認識効果は文字情報よりも高い

極端回避性

プラスであれマイナスであれ、飛びぬけた性格をもつ選択肢を加えると中間の性格を持つ選択肢が選ばれる確率が高まる

現状維持バイアス

自分や所有するものに高い価値を感じ、手放したくないと感じる

確証バイアス

自分の考えに近い情報ばかりを集めてしまい、自分の考えを否定する情報を遠ざける

テンション・リダクション効果

重要な決定後の次の決定をする際に気のゆるみが生じる

現在バイアス

目先の利益が目ぐらみ、将来の大きな利益が目が行かない



画像優位性効果

文字情報よりも画像情報の方が強く認識される



テンション・リダクション効果

重大な決定後には気が緩み、ついで買いなどをしてしまう。



レジ横

現状維持バイアス・楽観バイアス

これまで大丈夫だったから、これからも大丈夫だと考えて、変化を嫌う



アンカリング効果

最初に印象に残った数字や言葉が判断に影響を及ぼす（最初に見た情報に影響されやすい）



確証バイアス

自分の考えに近い情報ばかりを集めてしまい、自分の考えを否定する情報を遠ざける



健康に関する情報は入ってきにくい

